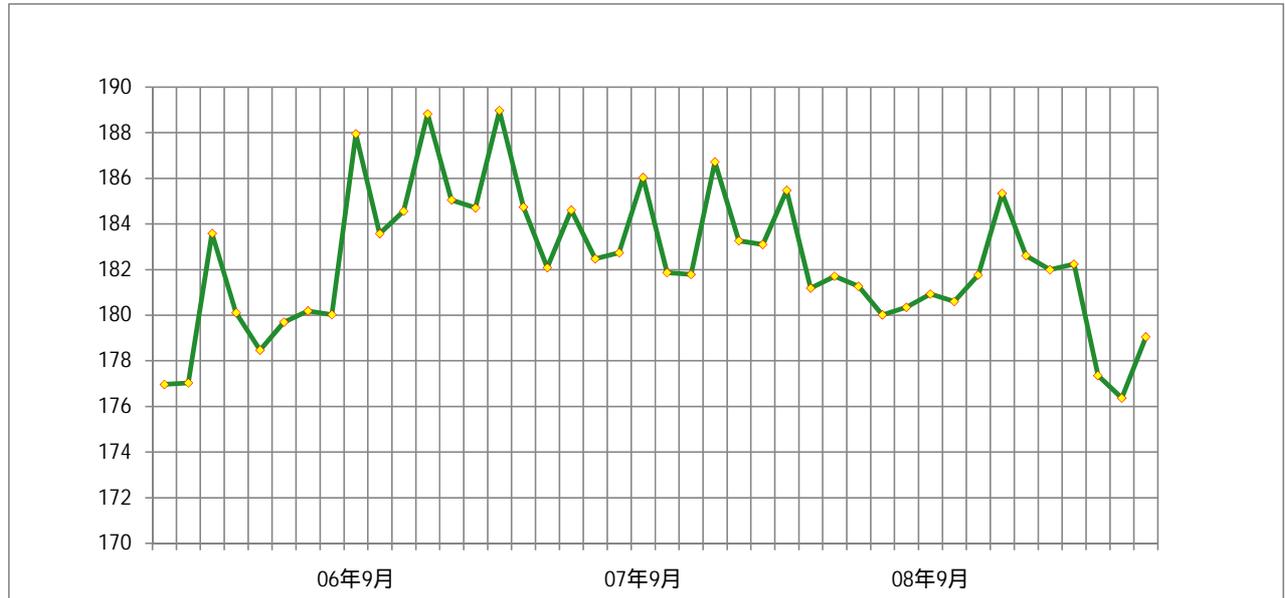


金融対策と中小企業貸出残高 (何が本当か)



上のグラフは、日本銀行が公表している銀行の中小企業向貸出残高数値(金額単位:兆円)の内、06年1月~09年6月迄を折れ線グラフにしたものです。昨年の金融危機以降、次々に打たれた中小企業金融対策が実際の銀行貸出残高にどう影響しているかを見るために作成したものです。セミナーで使うために作ったのですが、いろいろ面白い動きが見てとれたので皆様に見て貰うのもよいと思い掲載した次第です。

グラフから云えることの第一は、銀行の中小企業貸出残高は銀行自身の決算期に大きな影響を受けるということです。決算期を入れていないので分かりにくいと思いますが、3ヶ月毎位に残高が膨らんでいることが見てとれます。山になった月が3月、9月の決算期です。銀行は、決算期を迎えると貸出残高増加に走っていることがよく分かります。その反動で翌月から残高が減ります。それを承知でやっているのでしょうか。

第二は、景気拡大期でも残高を増やしきれていないことです。やっとのことで残高を維持していたところ、金融危機がやってきてしまったという所でしょうか。リーマンショックが起こった昨年9月は残高を増やすどころではなかったでしょう。全く平坦になっています。それが12月にかけて急激に増加しています。

何故増えたのかは皆さんもご存知の通り、政府の金融対策が効いたからです。保証協会100%保証の緊急保証制度を利用する企業が急増、銀行もリスクゼロということで積極的に対応した結果です。中小企業庁によれば、緊急保証の残高は今年4月初め時点で44.7万件、9.4兆円、7月半ばで62万件、12.4兆円になっています。中小企業向融資残高の規模からすれば、相当のインパクトがあったと見るべきでしょう。しかし、その後の落ち込みは何を意味するのでしょうか。

6月に若干持ち上がっていますが、今年4月以降急激に残高を減らしています。ここにこそ、中小企業が置かれた厳しい現実があるように思います。

何故このように減るのかを推測すれば、第一に前向きな資金需要そのものが少ないからであり、第二に中小企業が依然として財務改善の手綱を緩めていないからであり、第三に有価証券、貸出両面で傷ついた銀行のリスクテイク能力が低下しているからではないでしょうか。

何が本当なのか分かりませんが、あれだけ何でもありの金融対策を打っても残高は一時的にしか増えない。それが中小企業金融の現実です。私にはそう思えました。